

2023年4月2日 LINE メッセージ 日本キリスト兄弟団 新下関教会

<http://olive.lovepop.jp/LINEsound/2023/20230402.mp3>

廣川和行牧師 ヨハネの福音書 13章 21節～31節

「主よ。それは誰ですか」 パームサンデー 10分 55秒

13:21 イエスは、これらのことを話されたとき、心が騒いだ。そして証しされた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」

13:22 弟子たちは、だれのことを言われたのか分からず当惑し、互いに顔を見合わせていた。

13:23 弟子の一人がイエスの胸のところで横になっていた。イエスが愛しておられた弟子である。

13:24 そこで、シモン・ペテロは彼に、だれのことを言われたのか尋ねるように合図した。

13:25 その弟子はイエスの胸元に寄りかかったまま、イエスに言った。「主よ、それはだれのことですか。」

13:26 イエスは答えられた。「わたしがパン切れを浸して与える者が、その人です。」それからイエスはパン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられた。

13:27 ユダがパン切れを受け取ると、そのとき、サタンが彼に入った。すると、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、すぐしなさい。」

13:28 席に着いていた者で、なぜイエスがユダにそう言われたのか、分かった者はだれもいなかった。

13:29 ある者たちは、ユダが金入れを持っていたので、「祭りのために必要な物を買いなさい」とか、貧しい人々に何か施しをするようにとか、イエスが言われたのだと思っていた。

13:30 ユダはパン切れを受けると、すぐに出て行った。時は夜であった。

13:31 ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今、人の子は栄光を受け、神も人の子によって栄光をお受けになりました。」

おはようございます。

新年度がスタートし、今日からは受難週が始まります。

今は桜が満開で、今年はゆっくりお花を楽しむことができます。

今年度の教会の歩みや、私たち一人一人の歩みが主に守られ、祝福されますようにお祈りをいたします。

さて今日はパームサンデー(棕櫚の主日)です。

イエス様が十字架にかかって死ぬために、

エルサレムに入られたことを記念する日です。

また今週の金曜日の7日は、

イエス様が十字架にかかれたことを記念する受難日です。

この受難週、主キリストの十字架の贖いを心に留めて、祈りの日々としていきましょう。

今日はヨハネの福音書 13章 21節から 31節を見ていきます。

イエス様が十字架にかかる前日、木曜日の夕食の時、いわゆる最後の晩餐の席でのことです。

弟子の一人イスカリオテのユダが

イエス様を裏切っていく時のことが記されています。

すべてのことをご存じのイエス様は、

弟子の一人であるイスカリオテのユダが

自分を裏切ることを知っていました。

イエス様はこれまで、

裏切る人物が身近にいる弟子の一人であることは、

弟子たちに言われませんでした。

ここに来てイエス様は「まことに、まことにあなたがたに言います。

あなたがたのうちの一人が私を裏切ります。」とはっきり言われました。

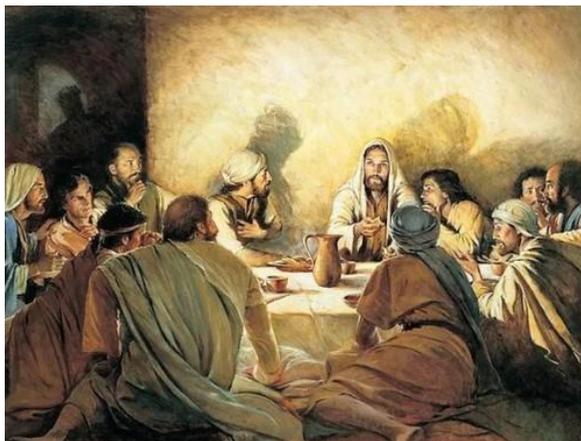
この時イエス様は心が騒いだとあります。

ご自分が選んだ弟子の一人が裏切ることに、とても心を痛めておられたことが分かります。弟子たちは突然のイエス様の言葉に当惑して、誰のことを指して言われたのか疑心暗鬼になっていました。互いに顔を見合わせてまさか自分のことを指して言われたのだろうか、誰のことを言ったのかと不安になったようです。

イエス様が愛しておられた弟子の一人がこの福音書の著者であるヨハネとされていますが、イエス様の胸のところで横

になっていました。胸のところで横になっていたのは、当時のユダヤ人は横になって食事をして

いたためです。シモン・ペテロがヨハネに向かって、イエス様を裏切る弟子は誰なのかを聞くように合図を送りました。



ヨハネがイエス様に、「主よ、それはだれのことですか」と質問すると、イエス様は「わたしがパン切れを浸して与える者が、その人です。」と答えました。

イエス様はパン切れを浸して取り、イスカリオテのユダに与えられました。

ユダがイエス様からパン切れを受け取ると、そのとき、サタンがユダの中に入ったとあります。

するとイエス様はユダに向かって「あなたがしようとしていることを、すぐしなさい。」とされました。

その場に居合わせた弟子たちは、ユダが何をしようとしているのかを知らなかったので、

イエス様の言われたこの言葉の意味が分かりませんでした。弟子たちはユダがイエス様一行の会計係だったので、過ぎ越しの祭りに必要な物を買いなさい、と言われたのだらうと思ったり、日頃からイエス様が貧しい人たちのことを気にかけておられたので、貧しい人たちのために施しをしなさい、と言われたのだらうかと、それぞれいろいろと考えていました。

そのため、ユダを引き止める人は誰もいませんでした。パン切れを受け取ると、

サタンの手先となったユダはすぐに夜の暗闇へ出て行きました。ユダはイエス様を殺そうとしているユダヤ人指導者たちのところへ行き、イエス様がこれから行かれる予定のゲッセマネの庭に、ユダヤ人指導者たちを連れて行こうとしていました。

この時から、サタンの手にイエス様が渡され、サタンの思いのままに事態が進展していきます。イエス様を捕らえて殺そうとチャンスを狙っているユダヤ人指導者たちの手にイエス様は渡され、殺されていくのです。ここで注目したいことがあります。

イエス様の受難は、一見サタンの思惑通りに進んでいるように思いますが、事実はイエス様の主導権のもとで進んでいるのです。

サタンがユダの中に入りましたが、
「あなたがしようとしていることを、すぐしなさい。」と言われた
イエス様の言葉がなければ、
サタンはイエス様を殺害する行動を起こすことはできなかったのです。
サタンは全知全能の神様の支配下にあり、
神様が許可した範囲内のことしかできないのです。
このことはとても大切なことです。

私たちは主なる神様の他に恐れる者はいないのです。
イエス様はサタンのしようとしていることにご自身を任されたのですが、

それは何を意味するのでしょうか？

イエス様はもはや、弟子たちを教えたり、御言葉を人々に伝えたり、病気を癒したりなど、人々に関わることができなくなるのです。

イエス様は、人々に捕らえられ、唾をかけられ、バカにされ、鞭で打たれ、死刑を宣告されます。そして、十字架につけられ、罪あるものとして処刑されていきます。

イエス様のされたことは、ご自分をその場から救うことではなく、

天の父なる神様が

自分に対してされようとすることを受け入れることでした。

イエス様のこの地上での使命は、すべての人々の罪を贖うためであり、ご自分の命を捨てることでした。

その神様から与えられた使命に、

イエス様はご自身を委ねられたのです。

人は自分の人生は自分のものであると思ったり、物事は自分の思い通りになるはずだと思いがちです。けれどもそれが幻想にすぎないことはすぐに分かるようになります。私たちが困難の中を通ったり、自分が死ぬかもしれないという危機的な状況に陥った時、自分の力ではどうすることもできないことが、身をもってわかるようになるからです。

いかに人生が

自分の思い通りにいかないものであるかを思い知るのです。

親しい家族や友人との突然の別れや、病気や、老いて弱った体を受け入れざるを得なくなる時があります。

自分の思い描いていた人生や夢を手放さなければいけない時もあるでしょう。

やがてすべての人に訪れる死によって、地上で得たすべてを失う時が必ず来ます。

イエス様がサタンの企てに身を委ねることは、天の父なる神様のご自身を委ねることでした。私達も、握りしめている自分自身や、自分の願いや自分が思い描いていた計画を手放して、主イエス様に委ねて歩むことが求められているのではないのでしょうか。時としてそれは心が騒ぎ、痛みや苦しみ悲しみを伴うことがあるかもしれません。けれども主イエス様は私達を愛し、決して見放さず見捨てないお方であり、常に最善の道を用意し、導いてくださるお方です。イエス様に自分自身と、願い、計画を委ねて歩むときに、私達に平安と喜びを与えてくださり、必ず将来と希望を与えてくださいます。新しい年度、私達は主イエス様に信頼して、委ねて従って歩んでまいりましょう。

お祈りをいたします。
ご在天の父なる神様、私達を愛し慈しんでくださっているあなたの御名を褒め称えます。先週1週間の歩みを守り導いてくださったことを覚えて感謝をいたします。
私達を愛し慈しんでくださっているイエス様に信頼して、すべてのことを委ねて、従って歩んで参りたいと願っています。今週の兄弟姉妹の歩みを豊かに祝福してください。病を得てる方々を顧みて、癒し、健やかにしてください。試練の中で苦闘しておられる方々を、慰め、励まし支えてください。主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊との親しき交わりが、会衆一人一人の上に、今も後もとこしえまでも力強くあらんことを。アーメン。

